



現代文編
表現教材
古典編

◎教材は、評論・随想9教材、小説5教材、詩歌6教材を収録。定評ある教材に加え、清新な教材を発掘。平易な文章で、かつ生徒の思考を促し、生徒の心に残る教材を揃えました。

◎短時間で取り組む活動と、じっくり取り組む活動との二系統で構成。「教室でともに学ぶ」ということを大切にしながら、表現することの楽しさと大切さを体験できるよう工夫しました。資料編ともリンクします。

◎古文・漢文とも国語総合で読みたい主要ジャンルの作品を厳選して採録。古典文法や漢文訓読の基礎も確実に押さえられるようにしました。コラムを増やし、作品の特徴や作品の背景とも触れられるようにしました。図版・写真も増やし、資料編には古典の参考図録入れました。

現代文編・表現編

1 随想

ベトナムのコーヒー屋
負け方を習得する

自分を印象つけるスピーチ

自分を漢字で表すと？ 話す・聞く1

2 小説

雪ウサギ
とんかつ

小説と映像 ブックガイド1

なんて、言っている？ 話す・聞く2

3 詩

旅上
シリウス

隣の友達 書く1

4 評論

魚は陸から離れられない
海ガメの無念 読み比べ

情報の読み方・扱い方 書く2

5 随想

ツゴイネルワイゼン
思いを述べる

忘れられないでいいこと 書く3

6 小説

バスに乗って
セメント樽の中の手紙

世界の中の日本語文学 ブックガイド2

この本を読んでみて！ ブックトーク 話す・聞く3

古典編

◆古典の響き 竹取物語・枕草子・平家物語・徒然草・奥の細道・春曉論語

古文

1 古文入門

古文の世界へ

児のそら寝(宇治拾遺物語)

馬と犬のこと(伊曾保物語)

伊曾保物語 コラム

歴史的仮名遣い・古語の意味と形 古文のとびら1

2 随筆

徒然草 公世の二位のせうとに 亀山殿の御池に 高名の木登り
枕草子 五月ばかりなどに にくきもの

三大随筆 コラム

3 物語

伊勢物語 芥川 筒井筒
「筒井筒」について『恋する伊勢物語』より 俵万智

うたう心 万葉集(四首) 古今和歌集(三首) 新古今和歌集(三首)

4 和歌

三大歌集 コラム
和歌の修辞 古文のとびら3

平家物語 木曾の最期

5 軍記

敬語 古文のとびら4
源氏物語の世界へ コラム

古典文法の要点 1 用言の活用 2 助動詞・助詞

7 短歌・俳句

遠い片手 短歌九首
麦わら帽子のへこみ

穂村弘

8 評論一

詩歌の世界 ブックガイド3
春のオルガン 俳句十二句
原作と勝負! 書く4

水の東西
問題解決の心理学

山崎正和
堀井秀之

9 随想三

働く喜び、技もついで
あたりまえなことにありがとう

多様な命を生きる ブックガイド4
マンガの楽しみ 書く5

塩野米松
池田晶子

10 小説三

羅生門
うそか、本当か 話す・聞く5

芥川龍之介

11 評論三

届く言葉、届かない言葉

新聞に投書してみよう 意見文 書く6
近代文学の世界 ブックガイド5

鷺田清一

漢文

1 漢文入門

漢文の世界へ
故事成語

虎の威を借る(戦国策)
蛇足(戦国策)

故事成語と遊説家 コラム

2 漢詩

漢詩の世界

静夜思
勸酒
江南春
涼州詞
月夜
香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁
白居易

李白
于武陵
杜牧
王翰
杜甫

涼州詞

月夜

香炉峰下、新卜山居、草堂初成、偶題東壁

日本人と唐詩 コラム

漢詩の形式 漢文のとびら

3 語録

論語の言葉

学問(三章)
生き方(三章)

人との関わり(三章)

4 史話

史話を読む

三国志の人々
蓋頭上題合字 (世説新語)
前有大梅林 (世説新語)
死諸葛走生仲達(十八史略)

三国志を楽しむ コラム

訓読のきまり

資料編

原稿用紙の使い方
手紙の書き方
情報の収集と発信
話し合いの方法
表現テーマ例集

古典文法要覧

単語の分類

動詞活用表(文語・口語)

形容詞活用表(文語・口語)

形容動詞活用表(文語・口語)

文語助動詞活用表

文語助詞の分類

文学史年表

漢文参考略年表

常用漢字表・付表

古典の中の植物／古典の中の色
装束
住居・調度

時刻・方位／干支表／月の異名／陰暦月齢表

旧国名・都道府県名対照図

平安京条坊図

京都付近地図／奈良付近地図

中国関係地図

明解国語総合 現代文教材の内容

1 随想一

●ベトナムのコーヒー屋(角田光代) コミュニケーション

ベトナム旅行の際に逗留した海辺の町ニヤチャン。そこで屋台のコーヒー屋を営む親子とふと知りあつた筆者は、毎日のようにその店へ通うようになる。「どこの国のものでもない言葉で、あれやこれやと話しをしては、お互い意味をわかつたような気持ちになつてげらげらと笑つた」日々。忘れられない思い出を綴る滞在記。

●負け方を習得する(内田樹) 生き方・考え方

昨今は「どうやって勝つか」ばかりを考え、決して「負け」を認めないのが風儀らしい。だが現実には、ほとんどの場合において私たちは、負けることのほうが多いのではないか。「死ぬまで勝ち続けることは誰にもできない」ことを認め、負けることから学ぶ大切さを説く、「適切な負け方」のすすめ。

2 小説一

●雪ウサギ(谷村志穂)

親友の「ベッカ」が遠くへ転校してしまつた「私」は、ひとりぼっちで取り残された気持ちで毎日を過ごしていった。何をするにも自分からは動き出せない「私」は、あるとき「ベッカ」のかけてきた電話の言葉をきっかけに、彼女に会いに行くことを決心する。喪失の体験をとおして少女が成長する姿を描く物語。

●とんかつ(三浦哲郎)

北陸の小さな宿に青森から泊まりにきた母子連れ。目的は近くにある禅宗の大本山に息子を入門させることだつた。夕食に母親は息子の好物のとんかつを所望し、二人はしみみりと別れの食事をする。翌年、けがをした息子の見舞いに訪れた母親の気持ちに察した女将はとんかつを準備し、凛とした僧になった少年は、匂いに気づくと黙つて合掌して母親の部屋へと上がつていった。母子の情愛と、それを見つめる周囲の人間との交流を鮮やかに描いた小編。

3 詩

●旅上(萩原朔太郎)

「ふらんすへ行きたしと思へども／ふらんすはあまりに遠し……」初夏の風の中、遠い異国の地への憧れをみずみずしく描いた、朔太郎の詩壇デビュー作。

●シリウス(石津ちひろ)

冬の夜空で輝くシリウスのように際だつ「おもいのたけ」とはどのようなものか。限られた言葉でつづられた詩から、「わたし」の抱く「おもい」を想像する。清新な詩教材。

●シジミ(石垣りん)

夜中の台所で口をあけて生きている「シジミ」。それに向かつて「鬼ババ」のように笑う私も、うつすら口をあけて寝るしかない。日常のひとこまから、生の深淵をのぞかせる佳品。

4 評論一

●魚は陸から離れられない(松浦啓一) 自然・環境

「魚は水さえあれば地球上のあらゆる所で生息できるといつても過言ではない」にも関わらず、全ての海水魚のおよそ八割が、全海洋の僅か八パーセントの浅い海にひしめいている。魚の生息環境とそこでの意外な生態や多様性、そしてそこから生まれる人間との深い結びつきを、豊富な写真とグラフとともにわかりやすく解明する。

5 随想二

●ツゴイネルワイゼン(黒柳徹子) 戦争

「チゴイネルワイゼン」は筆者にとつて、思い出深い曲の一つである。楽団員だつた父がよく弾いていただけでなく、戦時中に疎開した青森で偶然耳にして曲名を教えられたり、死後に届いた手紙によつて父親の軍隊での様子がわかるきっかけとなつたりするなど、父と自分をつなぐ導線となつた二曲の記憶。

6 小説二

●バスに乗つて(重松清)

入院した母を見舞いに病院へ通うため、一人でバスに乗るようになった小学校五年生の少年は、ことあるごとに同じ運転手のバスに乗り合わせる。母の入院が長引くにつれて不安が募る少年と、ぶつきらばうな口調でささいな行動にも注意をする運転手とが織りなす人間模様が、少年の心情に寄り添いながら巧みに描かれる短編。

●セメント樽の中の手紙(葉山嘉樹)

発電所の建築現場で二日中セメントまみれでヘトヘトになるまで働く男、松戸与三。彼がセメント樽の中から見つけた木箱に入つていた手紙には、あまりにも衝撃的なことが書かれていた。プロレタリア文学を代表する作家が、自らの労働体験から生み出した、清新で率直な文体と当時のモダンな「探偵小説」的構成による短編。

7 短歌・俳句

近代の代表的な作品とともに、現代の最先端の作品にも焦点を当て、親しみやすく新しい選歌・選句で教材化した。

●遠い片手 短歌九首

与謝野晶子・斎藤茂吉・岡本かの子・小島ゆかり・穂村弘・東直子・佐藤弓生・松村正直・永田紅の作品を収録。

●麦わら帽子のへこみ(穂村弘)

石川啄木・俵万智・若山牧水の作品を例にあげながら、「共感」「驚異」「クビレ」をキーワードに短歌表現を分析し、なぜ短歌が人を感動させるのかを明らかにする鑑賞文。

●春のオルガン 俳句十二句

正岡子規・高浜虚子・萩原井泉水・飯田蛇笏・橋本多佳子・中村汀女・加藤楸邨・篠原鳳作・森澄雄・鎌倉佐弓・浦川聡子・大高翔の作品を収録。

8 評論一

● 水の東西(山崎正和) 比較文化

鹿おどしと噴水から連想される西洋と日本との文化の違いを、「流れる水と、噴き上げる水」「時間的な水と、空間的な水」「見えない水と、目に見える水」といったキーワードを用いながら、二項対立の形式でわかりやすく説明する。

● 問題解決の心理学(堀井秀之) 心理・脳

私たちは「問題解決」というと、何か難しいことだと考えがちだ。だが実際は無意識のうちに、日々直面する問題に対して、コンピュータより「はるかに効率的」に問題を解決している。人が膨大な情報の中から必要な情報を検索選択して問題解決に結びつけるメカニズムを、「記憶」と「因果関係」をキーワードに論ずる。

9 随想三

● 働く喜び 技もつ体で(塩野米松) 仕事・労働

かつて「働くこと」は「生きること」だった。徒弟制度のような厳しい環境に置かれても、その先にあるものを見つめて生きることができた。「時間のかかる訓練を避け、効率の向上を目指す」と、報酬が金銭に置きかえられるようになって、働くことの意味は変わった。「働くことの喜び」の復権に向けて記す道しるべ。

● あたりまえなことにありがとう(池田晶子) 存在と認識

「ありがとう」という言葉には、「存在に対する感謝」ひいてはその先にある「もっと大きな何かに対する感謝」がこめられている。それは、あらゆる偶然の結果として生まれた「奇跡」への驚きの感情である。日々の「あたりまえ」の中にあるかけがえのなさを、自らの経験为例に語る幸福論。

10 小説三

● 羅生門(芥川龍之介)

『今昔物語集』に取められた「羅城門登上層見死人盗人語第十八」の逸話に想を得て、平安時代の荒廃した都を舞台に、生きるために自らの悪行を正当化しようとする老婆と下人の姿をとおして、人の心のありようを描く。近代短編小説を代表する作品。

11 評論三

● 届く言葉、届かない言葉(鷺田清二) 言葉

病院で本の朗読をねだりながら、母親が読みだすと別のことを始め、読み終わったり中断したりすると再読を要求する幼児。彼らが求めているのは本の内容ではなく、「母親の意識の宛先になっている状況」であり「私のみを宛先としている声」なのだ。人と社会との関係性から見える、声に秘められた役割と意味とを論ずる。

『国語総合』↓『現代文』教材系列一覽

1部

2部

高等学校国語総合(現代文編)

池田清彦「『もの』の科学から『こと』の科学へ」
 岩井克人「マルジャナーナの知恵」
 内田樹「なぜ私たちは労働するのか」
 内山節「余暇について」
 大森荘蔵「見る」考える」
 黒崎政男「ネットが崩す公私の境」
 小林秀雄「美を求める心」
 鈴木孝夫「もの」とことば」
 田中真知「ありのままの世界は見えない」
 多和田葉子「夢は何語で見る?」
 外山滋比古「情報の『メタ』化」
 福岡伸一「生物と無生物のあいだ」
 中村安希「子ブタと未来」
 山崎正和「水の東西」
 鷺谷いづみ「クマの棲める森」
 芥川龍之介「羅生門」
 川上弘美「神様」
 志賀直哉「灰色の月」
 太宰治「富嶽百景」
 夏目漱石「夢十夜」
 ティム・オプライエン／村上春樹訳「待ち伏せ」

高等学校現代文B

赤坂憲雄「木を伐る人／植える人」
 岩井克人「ホンモノのおカネの作り方」
 内田樹「ネット上の発言の劣化について」
 清岡卓行「ミロのヴィーナス」
 西谷修「戦争の〈不可能性〉」
 原研哉「空白の意味」
 日野啓三「市民」のイメージ」
 丸山圭三郎「ロゴスと言葉」
 丸山真男「『である』ことと『する』こと」
 見田宗介「南の貧困／北の貧困」
 港千尋「擬似群衆の時代」
 村上陽一郎「科学の現在を問う」
 柳澤桂子「病と科学」
 鷺谷いづみ「人類による環境への影響」
 河野多恵子「少女」
 中島敦「山月記」
 夏目漱石「こころ」
 原民喜「夏の花」
 山田詠美「ひよこの眼」

石原吉郎「ある〈共生〉の経験から」
 今村仁司「抗争する人間」
 大澤真幸「コミュニケーションに未来はあるか」
 岡真理「虚ろなまなざし」
 加藤周「日本文化の雑種性」
 黒崎政男「身体(の)疎外」
 小林秀雄「無常ということ」
 多木浩二「写真に何が可能か」
 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」
 夏目漱石「現代日本の開化」
 野村雅二「身体像の近代化」
 鷺田清二「ぬくみ」
 C・レヴィーストローース／川田順造・渡辺公三訳
 「累積的社会・停滞的社会」
 安部公房「靴」
 梶井基次郎「檸檬」
 三島由紀夫「美神」
 森鷗外「舞姫」
 レベッカブラウン／柴田元幸訳「涙の贈り物」

評論

精選国語総合

池田清彦「『もの』の科学から『こと』の科学へ」
 内田樹「なぜ私たちは労働するのか」
 加藤周「創造力のゆくえ」
 佐藤信夫「コインは円形か」
 佐藤洋一郎「森に起きていること」
 野元菊雄「言語は色眼鏡である」
 柳澤桂子「命は誰のものなのか」
 山崎正和「水の東西」
 吉岡洋「情報と身体」

精選現代文B

赤坂憲雄「木を伐る人／植える人」
 岩井克人「未来世代への責任」
 岸田秀「恐怖とは何か」
 清岡卓行「ミロのヴィーナス」
 隈研吾「コンクリートの時代」
 西谷修「戦争の〈不可能性〉」
 原研哉「空白の意味」
 日高敏隆「木の葉と光」
 若林幹夫「メディアと歴史」
 松田美佐「『選べる社会』の難しさ」
 丸山真男「『である』ことと『する』こと」

池上嘉彦「『ブーボー』と『マンマ』の記号論」
 内田樹「ネットでの発言の劣化について」
 大西赤人「判断停止の快感」
 岡真理「虚ろなまなざし」
 加藤周「日本文化の雑種性」
 川口良角田史幸「カタカナ語は享受すべきか」
 黒崎政男「身体(の)疎外」
 小林秀雄「無常ということ」
 高村薫「『私』消え、止まらぬ連鎖」
 長嶋善郎「サウルとフレル」
 見田宗介「南の貧困／北の貧困」
 村上陽一郎「科学の現在を問う」
 柳澤桂子「病と科学」

現代文A	
太田光「アマガエル」 角田光代「旅する本」 川上弘美「境目」 姜尚中「人はなぜ働くのか」 高畑勲「眼差しを交わす喜び」 中島敦「山月記」	夏目漱石「夢十夜」 福岡伸一「絶え間のない流れの中にある生命」 三浦しをん「求めるものに応えてくれる」 茂木健「郎」「最初のペンギン」 鷺田清「モード化する社会」

随想	小説	評論
明解国語総合		
池田晶子「あたりまえなことにありがとう」 内田樹「負け方を習得する」 角田光代「ベトナムのコーヒー屋」 黒柳徹子「ツゴイネルワイゼン」 塩野米松「働く喜び 技もつ体で」	芥川龍之介「羅生門」 重松清「バスに乗って」 谷村志穂「雪ウサギ」 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」 三浦哲郎「とんかつ」	堀井秀之「問題解決の心理学」 松浦啓「魚は陸から離れられない」 山崎正和「水の東西」 鷺田清「届く言葉、届かない言葉」
明解現代文B		
内山節「春」 角田光代「待つということ」 酒井順子「ズルい言葉」してあげる」 佐藤雅彦「前の駅出ました」	井上ひさし「サイン」 内海隆一郎「芋ようかん」 大崎善生「神様捜索隊」 川上弘美「水かまきり」 夏目漱石「ころろ」	竹田青嗣「『自己』について考えること」 長谷川眞理子「コンドルの誤り」 原研哉「持たないという豊かさ」 松沢哲郎「想像する力」
小川洋子「誰の目にもふれないところで」 さくらももこ「春の小川の思い出」 半藤利「十五歳の東京大空襲」 別役実「なまけものコンプレックス」 茂木健「郎」「最初のペンギン」	井伏鱒二「山椒魚」 恩田陸「ピクニックの準備」 中島敦「山月記」 吉村昭「破船」	岩井克人「ホンモノのおカネの作り方」 加藤周「『知る』ということ」 鷺田清「『自由』のはき違え」 渡部潤二「宇宙人」 地球以外に生命体は存在するか」

随想	小説
川上未映子「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」 鷺田清「『待つ』ということ」	芥川龍之介「羅生門」 志賀直哉「清兵衛と瓢箪」 林京子「空缶」 宮沢賢治「なめとこ山の熊」 村上春樹「青が消える」 吉本ばなな「みどりのゆび」
茂木健「郎」「最初のペンギン」 鷺田清「わかりやすいはわかりにくい？」	角田光代「ランドセル」 中島敦「山月記」 夏目漱石「ころろ」 村上春樹「レキシントンの幽霊」 横光利「蠅」
安部公房「靴」 大岡昇平「靴の話」 小川洋子「飛行機で眠るのは難しい」 森鷗外「舞姫」	

『国語総合』↓『古典』教材系列一覧

精選／明解

その他		日記	随筆	物語	説話
高等学校国語総合(古典編)					
宇治拾遺物語	十訓抄	竹取物語	伊勢物語	徒然草	土佐日記
児のそら寝／絵仏師良秀	大江山	かぐや姫の生い立ち／かぐや姫の成長	芥川／東下り／筒井筒／さらぬ別れ	つれづれなるままに／ある人、弓射ることを習ふに／亀山殿の御池に／名を聞くより／九月二十日のころ／花は盛りに	門出／海賊の恐れ／忘れ貝／帰京
評論	三冊子(師の風雅)／うひ山ぶみ(学びやうの次第)	軍記	和歌	紀行	
	平家物語(祇園園精舎・富士川・木曾の最期)		万葉集・古今和歌集・新古今和歌集	奥の細道(旅立ち・那須野・平泉・立石寺)	
高等学校古典B(古文編)					
今物語	発心集	古本説話集	竹取物語	伊勢物語	源氏物語
1 やさし蔵人	1 侍従大納言、験者の改請を止むること	1 丹後の国の成合のこと	1 かぐや姫の昇天	1 初冠／月やあらぬ／狩りの使ひ／小野の雪／つひにゆく道	1 光源氏の誕生／藤壺の入内／北山の垣間見 2 高麗人の観相／廃院の怪／藤壺の里下がり／車争ひ／心づくしの秋風／明石の君の苦惱／明石の姫君の入内／女三の宮の降嫁／萩の上露／形見の文／小野の里訪問／夢の浮橋
2 大和物語	1 虫めづる姫君	1 あだし野の露消ゆることなく／相模守時頼の母は／家居のつきづきしく／世に語り伝ふること／世に従はん人は	1 ありがたきもの／すさまじきもの／中納言参り給ひて／雪のいと高う降りたるを 2 木の花は／かたはらいたきもの／二月つごもりごろに／九月ばかり／頭の弁の、職に参り給ひて／殿などのおはしまさでのち／村上の前帝の御時に／宮に初めて参りたるころ／大納言殿参り給ひて／この草子、目に見え心に思ふことを	1 ゆく河の流れ／養和の飢饉／日野山の閑居	1 うつろひたる菊／鷹を放つ
大鏡	堤中納言物語	徒然草	枕草子	蜻蛉日記	和泉式部日記
1 雲林院の菩提講／花山院の出家／弓争ひ 2 東風吹かば／宣耀殿の女御／最後の除目／三舟の才／伊周・隆家／肝試し／道長と詮子／鶯宿梅	1 夢よりもはかなき世の中を	1 秋のけはひ／和泉式部と清少納言	1 あこがれ／源氏の五十余巻	2 古今和歌集仮名序(やまと歌は)／俊頼髓脳(鷹狩りの歌)／無名草子(清少納言・紫式部)／無名抄(深草の里)／毎月抄(心と詞)／正徹物語(二字の違ひ・亡き人恋ふる)／風姿花伝(秘すれば花)／去来抄(行く春を・岩鼻や)／難波土産(虚実皮膜の間)／玉勝間(師の説と違へること多く)／源氏物語玉の小櫛(もののあはれ)	1 平家物語(忠度の都落ち・能登殿の最期)
1 和歌十六首／水無瀬三吟百韻	1 近世俳諧／笈の小文／西鶴諸国ばなし(大晦日は合はぬ算用)				

1 1部／2 2部

古今著聞集

1 小大進、北野の神助を被ること

その他	日記	随筆	物語	説話
精選国語総合・明解国語総合				
紀行	和歌	徒然草	伊勢物語	宇治拾遺物語
軍記	歌集	枕草子	竹取物語	今昔物語集
平家物語(精) 奥の細道(旅立ち・平泉・立石寺)	精 明 万葉集・精 明 古今和歌集・精 明 新古今和歌集 祇園精舎・精 明 木曾の最期	精 門出／精 忘れ貝／精 帰京 明 五月ばかりなどに／明 にくきもの	精 明 芥川／精 東下り／精 明 筒井筒 精 かくや姫の生い立ち／精 かくや姫の成長	精 明 児のそら寝／精 検非違使忠明 精 阿蘇の史 伊曾保物語(明) 馬と犬のこと

古典A				精選古典B																					
古事談	十訓抄	今昔物語集	宇治拾遺物語	近世小説	俳諧と俳文	伝承	和歌	軍記	評論	紫式部日記	和泉式部日記	建礼門院右京大夫集	更級日記	方丈記	枕草子	徒然草	大鏡	源氏物語	伊勢物語	竹取物語	十訓抄	宇治拾遺物語			
蜂飼いの大臣	笛吹き成方／行成と実方	絵師と大工／玄象の琵琶／姨母捨山／武士の祭り見物	百鬼夜行／観音になった男／呪いを知らせた犬／絵仏師の執心／夢を買う／袴垂と保昌／後の千金／応天門炎上／歌詠みの徳	② 西鶴諸国ばなし（大晦日は合はぬ算用）／雨月物語（浅茅が宿）	① 近世俳諧／野ざらし紀行	① 古事記（倭健の東征）	① 和歌十六首	① 平家物語（忠度の都落ち・能登殿の最期）	② 古今和歌集仮名序（やまと歌は）／俊頼髓脳（杏冠折句の歌）／無名草子（文）／無名抄（深草の里）／毎月抄（心と詞）／正徹物語（待つ恋）／風姿花伝（下手は上手の二本）／去来抄（行く春を・岩鼻や）／源氏物語玉の小櫛（もののあはれ）	② 秋のけはひ／和泉式部と清少納言	② 夢よりもはかなき世の中を	① なべて世のはかなきことを	① あこがれ／源氏の五十余巻	① ゆく河の流れ／養和の飢饉／日野山の閑居	① 春はあけぼの／すさまじきもの／中納言参り給ひて／雪のいと高う降りたるを	② ありがたきもの／木の花は／二月つごもりごろに／大納言参り給ひて	① 日、賀茂の競べ馬を／世に従はん人は	① 花山院の出家／弓争ひ／雲林院の菩提講	② 東風吹かば／都府楼の鐘／最後の除目／三舟の才／肝試し	① 光源氏の誕生「桐壺」／藤壺の入内「桐壺」／北山の垣間見「若紫」	② 廃院の怪「夕顔」／心づくしの秋風「須磨」／明石の君の苦悩「薄雲」／萩の上露「御法」	① 初冠／月やあらぬ／行く螢／小野の雪／つひにゆく道	① かくや姫の昇天	① 博雅の三位と鬼の笛	① 小野篁、広才のこと
発心集	古今著聞集	義家と宗任／女盗賊／相撲の勝負								蜻蛉日記	② うつろひたる菊／鷹を放つ									大和物語	古今著聞集				
恵心僧都の母																				① 姨捨	① 大江山				

※ここで紹介するものは、編集集のものもございまして、内容や仕様、デザインが予告なく変更されることがあります。どうかご了承ください。

新課程教科書指導資料のご案内

● 語句・文脈の解説と脚問・発問 ● 高 精 明

指導資料 教材研究に役立つ資料・解説と、授業で使える資料を豊富にそろえています。

高等学校・精選シリーズ

● 「単元の解説」では、教材ごとのねらいを示し、教科書全体における位置づけについても解説しています。

● 「教材の研究」(現代文では、筆者(作者)や出典の解説に加え、要旨・大意の例を示しています。小説教材には、「主題」についての考えを示した項目を設けました。また、教材文の筆者(作者)や教材ごとに、表現の特色についても解説しています。

● 「教材の研究」(古典では、作品について「成立」「表現上の特色」「文学史的位

置」などの項目を設けて解説し、作者(筆者)についても伝記的な内容や業績などを記しています。品詞分解・口語訳(古文)は、教材本文を総ルビで掲載して品詞分解を示し、原則として一文ごとに番号を振って口語訳と対応させました。『書き下し文・口語訳』(漢文)は、総ルビの書き下し文と口語訳を対応させました。

● 「学習の手引き」は、教室の実態に合わせて指導ができるよう、重要な問いについては解答例を複数示しています。現代文の「漢字」には、教科書本文の漢字や語句を中心とした練習問題を複数題掲載しています。

● 「研究・発展」の「参考文献」のリストには、教材研究や授業研究のための参考図書と、「生徒のためのブックガイド」を掲載しています。

脚問・発問

257ページ

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

語句・文脈の解説と脚問・発問

257ページ

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。
脚「花は盛り」に「月」は限なき(一行)とはどういふ関係にあるか。

● 学習展開例

第一時限

● 本時の目標

- 1 小説に関心をもち、感想を書く。
- 2 全文を通過して、感想を書く。
- 3 作品の構成を理解する。
- 4 疑問点を挙げて、課題解決への意欲を高める。
- 5 学習活動と指導内容。

● 導入

1 「題名」を眺めて、内容を予測する。
題名から、内容を予想し、主観的に読むようにする意欲をもちたがる。
2 題名「一瞬を生きる」から、どのような物語が始まるかを予測できるか。「一瞬に生きる」と比べて、どのような違いがあるか。
3 (例)「一瞬に生きる」であれば、ある一瞬にすべてを賭けて生きるという意味になり、刹那的な印象を与える。「一方、一瞬を生きる」であれば、わずかな時間であっても、その一瞬一瞬を大切に生きていくという意味になり、未来に繋がっていくというイメージがわいてくる。この小説も、主人公が瞬を大切に生きていくというテーマなのではないかと予測される。
4 (留意点)
「題名読み」と呼ばれる指導法である。正解を出すことが目的ではない。言葉遣いのわずかな差異

に注意を向けることで、先が予測できることに気がつくばい、その予測が当たっているかどうか、課題意識をもって読み進めていくのである。

● 展開1

- 1 全文を通過する。
- 2 通読は、教室の真横に座して、適度な長さで分けて音読する。(読み取りを助けるため、また生徒参加の場を増やすために、最初は黙読よりも音読する方が望ましい。)
- 3 (留意点)
音読の際には、難読語の確認に留めず、登場人物の設定(年齢・職業・立場・状況など)に注意して読むように指示しておく。
- 4 2 時限の経過と事件の展開を手帳にメモする。
- 5 「ある日」(38・4)、「三日がたった」(41・5)、「四日の朝」(43・6)、「翌日と翌々日」(45・5)などに注目させる。時間の経過と事件の展開が対応しているのを、場面では比較的易しい作業となるはずである。「全体の構成段階分けと大意」の項参照。
- 6 (留意点)
五段に分ける説と、六段に分ける説とが出くることがある。無用な混乱を避けるために、あらかじめ「五段に分けられる」などと指示しておくことがよい。
- 7 初段の感想と疑問点を書く。

初発の感想を文章で書かせる。疑問点を簡潔書きで書かせる。なぜ疑問に思ったのか。その理由を書かせておくこと。
(留意点)
感想のまとまらない生徒には「彼」または「老カメラン」のいずれかについて、どう思ったのかを書かせること。
感想の疑問点は提出させ、次時の学習に生かす。漢字や難語句については次時までに調べノートに整理させておく。
〔板書例〕

○ 題名読み・題名から予想

「一瞬を生きる」
一瞬一瞬を大事にする
どんな仕事か？
「瞬」に生きる？ 刹那的

○ 場面分け(全体の構成)

*手がかり時・場所・人物・事件
第1段 初め(同僚や先輩たちは)「
第2段 38・4「ある日」
第3段 41・5「老カメラン」が
第4段 43・6「四日の朝」
第5段 45・5「翌日と翌々日」

○ 感想と疑問点を書く

「彼」(筆者)はどのような人物か。
「字ひの道しるべ」の解答例(解説を参照)
「老カメラン」はどのような人物か。
「字ひの道しるべ」の解答例(解説を参照)
(留意点)
「彼」と「老カメラン」の人物像を対比的に捉えるためには、「字ひの道しるべ」のように、二人の人物像を同時に考えさせるのが望ましい。
また、グループ学習を取り入れ、担当する登場人物を決めて分析させるという指導方法もある。生徒の状態によっては、第一だけを読んで、少年の人物像を整理した後、第二段に進み進むという方法を取つてもよいが、分断し進め方は授業を平板なものにする恐れがあることに留意する。
3 第三段から第五段までの「彼」の心の動きを捉える。

第二時限

● 本時の目標

- 1 課題意識を持つ。
- 2 「彼」と老カメランの人物像を把握する。
- 3 課題の視点から描かれているかを確かめ、小説の構図を理解する。

● 展開2

- 1 それぞれの感想と疑問点を出しあい、解決への意欲を高める。
- 2 (留意点)
前時に記入させた感想と疑問点を整理したプリントを配布し、課題の共有化を図る。
生徒たちが出てくる疑問点のなかから、登場人物の行為の意味について考えようとしているものを中心に、本時以降の学習課題に位置づけ。
- 3 第二段と第三段を読み、「彼」(ポヤ)と呼ばれる若者と「老カメラン」の人物像を理解する。
- 4 第二段と第三段を読み、「彼」(ポヤ)と呼ばれる若者と「老カメラン」の人物像を対照的に描き手を取りあわせ、二人の人物が対照的に描かれていることを気づかせ。
- 5 「字ひの道しるべ」の内容を学習する。
- 6 「彼」(ポヤ)と呼ばれる若者と老カメランはそれぞれどのような人物か、まとめよう。

「彼」(筆者)はどのような人物か。
「字ひの道しるべ」の解答例(解説を参照)
「老カメラン」はどのような人物か。
「字ひの道しるべ」の解答例(解説を参照)
(留意点)
「彼」と「老カメラン」の人物像を対比的に捉えるためには、「字ひの道しるべ」のように、二人の人物像を同時に考えさせるのが望ましい。
また、グループ学習を取り入れ、担当する登場人物を決めて分析させるという指導方法もある。生徒の状態によっては、第一だけを読んで、少年の人物像を整理した後、第二段に進み進むという方法を取つてもよいが、分断し進め方は授業を平板なものにする恐れがあることに留意する。
3 第三段から第五段までの「彼」の心の動きを捉える。

登場人物の心情を理解する。
「字ひの道しるべ」の内容を学習する。
「彼」(ポヤ)と呼ばれる若者と老カメランはそれぞれどのような人物か、まとめよう。
①「うまさうに……思い出した」(39・8)
②「彼は大きな声で……準備し始めた」(41・4)

図 第二段から「彼」の気持ちの直接表現されて

〔明解シリーズ〕

● 「教材採録の意図」では各教材を採録したねらいや、指導する際のポイントなどを示しています。

● 「教材文の概要」(現代文では筆者(作者)や典拠の解説に加え、要旨(大意)の例を示しています。小説教材には、「主題」についての考えを示した「主題」についての考察という項目を設けました。また、教材ごとに文体、修辭など表現上の特色も解説しています。

● 「教材文の概要」(古典では、作品・作者筆者)について成立「内容・構成」「文学史上の位置」「作者」などの項目を設けて解説しました。

● 現代文・古典ともに、小・中学校の国語教科書についての関連情報を適宜示しています。
(国語総合のみ)

● 「学習展開例」として、時間ごとの学習活動と指導内容を、発問例・板書例を取り入れて具体的に示しています。また、「生徒のための参考資料」として、発展的に読んだり比べ読みたりできる資料を収録しています。

● 品詞分解と通釈(古文)は、教材本文を総ルビで掲載して品詞分解を示し、原則として文ごとに番号を振って通釈と対応させました。「書き下し文と通釈」(漢文)では、総ルビの書き下し文と口語訳を対応させました。

● 「語句・文脈の解説」では、教科書の「語句」欄の語句や固有名称などについて解説したほか、読解上のポイントとなる文についても取りあげ、解説しています。発問は、授業の場での実際の問答を想定し、豊富に設定しました。

● 「字ひの道しるべ(学習の手引き)」は、適宜設問のねらいを示した上で、解答・解説を記しています。

● 「研究・発展」では、参考作品・参考資料などを掲載しています。現代文は、筆者(作者)・作品についても解説しています。「参考文献」のリストには、教材研究や授業研究のための参考図書に掲載しました。

指導資料付属資料

定期考査の参考になる問題集と授業や定期考査、受験対策などに使えるワークシートなどをご用意しています。

〈高等学校・精選シリーズ〉

付属DVD-ROM

※「高等学校国語総合 古典編」はCD-ROM

●評価問題集*

定期考査などに使える問題を、基礎・標準・発展の三段階で収録しています。

●実力問題集*

教材文と同著者の別作品や、別著者の同テーマの文章などを素材にした、入試対応の実力問題を収録。現代文・古典ともに、過去の入試問題を参考にして、独自に作成しました。

●補充教材集*

教材に関連する資料や、発展的に読むことのできる作品、表現活動のためのワークシート、古典文法のワークシートなどを収録しています。

●教科書原文

教科書教材の本文データです。

●基本テスト

短時間で基礎を養う小テストです。漢字・語句・古典文法・漢文句法などの問題で構成。教材ごとに1〜2本収録。

●発問例集

指導資料「脚問・発問」に掲載している授業の流れにあわせた発問例をデータで収録。

●構成・内容理解シート

教材文の構成を図解し、空欄を補充することとで、教材文の要点をおさえることができるシートです。予習・復習に使えます。

●語句・漢字学習シート

現代文・古文教材の「語句」欄の語句と、漢文教材の学習に役立つ漢字について学習するためのシートです。

●古文品詞分解シート

●漢文書き下し文シート

●古典口語訳（古文・漢文）シート

●学習課題ノートデータ

教科書準拠の「学習課題ノート」の内容を、自由に加工できるデータで収録します。

※データは、収録内容に応じて、二太郎、WORD、PDF、テスト問題エディタ(60ページ参照)の形式で提供します。

※「*」のものは国語総合のみ冊子が付属します。

〈明解シリーズ〉

付属DVD-ROM

●教科書原文

教科書教材の本文データです。それぞれ、ルビなし、教科書ルビ、中学配当ルビ、総ルビの4種類をご用意しています。

●評価問題

定期考査などに使える問題を、教材ごとに3〜6本収録します。解答例・解説付きです。

●補充学習資料

現代文は指導資料の中の「生徒のための参考資料を、古典は教科書教材に関連して扱える作品を、口語訳、書き下し文とともに収録します。

●基本テスト

短時間で基礎を養う小テストです。漢字・語句・古典文法・漢文句法などの問題で構成。教材ごとに1〜2本収録。

●発問例集

指導資料「脚問・発問」に掲載している授業の流れにあわせた発問例をデータで収録。

●学びの道しるべシート

教科書の各教材の「学びの道しるべ」の答えを書き込むシートです。

●語句・漢字シート

現代文教材の「語句・漢字」問題の答えを書き込むシートです。解答例付き。

●本文語句・本文漢字シート

現代文・古文の「語句」欄の語句と、現代文の「漢字」欄の漢字を学習するためのシートです。

●構成・内容理解シート

教材文の構成を図解し、空欄を補充することとで教材文の要点をおさえることができます。予習・復習に使えます。

●古文品詞分解シート

●表現活動シート

表現教材の学習活動に即したワークシートです。

●学習課題ノート

教科書準拠の「学習課題ノート」の内容を、自由に加工できるデータで収録します。

※データは、収録内容に応じて、二太郎、WORD、PDF、テスト問題エディタ(60ページ参照)の形式で提供します。

● 学習課題ノート

高
精
明

● 次の空欄を文章中の語句で補え。

評論一 水の東西 山崎正和【教科書 P. 133 P. 17】

全体の構成を理解しよう

日本の「鹿おどし」と西洋の「噴水」の対比に注目しながら、次の空欄を本文中の語句で補え。

③ 流れる水と噴き上げる水

「鹿おどし」は流れるものをせき止めることによって、かえって流れてやまないもの存在を強調している。「鹿おどし」が単純なリズムを無限に繰り返したり、①

「を反復する様子は」②

「を感じさせる。」

⑤ 時間的な水と空間的な水

欧米にはいたるところに噴水があった。その大きくて立派な③

静止しているように思われた。

⑥ 見えない水と目に見える水

日本の伝統には噴水がなかった。それは気候や歴史的事情にもよるのであろうが、日本人の場合、水は④

「を美しいと感じていたからであらう。『行雲流水』という思想は、流れる水のような⑤

「感性に支えられていたのである。」

⑥ 鹿おどしの現すもの

日本人は、⑦

「を大切にするので、もはや水を見る必要さえない。『鹿おどし』は、日本人の⑧」

「が行きついた

最高の境地を表す仕掛けと言える。

漢字・語句を確認しよう

一 次の漢字の読みを記せ。

① 緩やか () ② 静寂 () ③ 素朴 ()

④ 凝らす () ⑤ 壮大 () ⑥ ぞしい ()

⑦ 間隙 () ⑧ 極致 ()

高等学校国語総合

〈現代文編〉

(日本語の響き)

羅生門

蝻のうへ

死なない蝻

サフラン

崖

〈古典編〉

古典の響き

伊勢物語 芥川／筒井筒

漢詩 春曉／登鶴鶴樓／静夜思／江雪／

送元二使安西／江南春／涼州詞／

春望／臨洞庭／

香炉峰下、新ト山居、草堂初成、偶題東壁／

登高

高等学校現代文B

舞姫

高等学校古典B

方丈記 ゆく河の流れ

源氏物語 光源氏の誕生

更級日記 あこがれ

古今和歌集仮名序 やまと歌は

高等学校古典B

漢詩 漢文編

鹿柴／秋浦歌／宿建德江／早發白帝城／

芙蓉樓送辛漸／楓橋夜泊／

送杜少府之任蜀州／春夜喜雨／

八月十五日夜、禁中獨直、對月憶元九／

遊山西村

精選国語総合

〈現代文編〉

日本語の響き(現代文・古典)

羅生門

旅上

サーカス

I was born

崖

〈古典編〉

伊勢物語 芥川／筒井筒

漢詩 春曉／静夜思／江雪／送元二使安西／

黄鶴樓送孟浩然之広陵／涼州詞／春望／

登岳陽樓／

香炉峰下、新ト山居、草堂初成、偶題東壁

精選現代文B

山月記

精選古典B

〈古文編〉

方丈記 ゆく河の流れ

枕草子 春はあけぼの

源氏物語 光源氏の誕生

更級日記 あこがれ

古今和歌集仮名序 やまと歌は

〈漢文編〉

漢詩 鹿柴／宿建德江／春夜洛城聞笛／別董大／

涼州詞／送友人／月夜／

八月十五日夜、禁中獨直、對月憶元九／

遊山西村

明解国語総合

〈現代文編〉

雪ウサギ

バスに乗って

セメント樽の中の手紙

羅生門

旅上

シリウス

シジミ

〈古典編〉

古典の響き

伊勢物語 芥川／筒井筒

漢詩 静夜思／勸酒／江南春／涼州詞／月夜／

香炉峰下、新ト山居、草堂初成、偶題東壁

明解現代文B

山月記

テスト問題エディタ

テスト問題作成のための新しいパソコン用ソフトです。問題番号や傍線、解答欄を手軽に付けることができます。

また、返り点や左右の振り仮名、送り仮名を編集できる漢文エディタ機能も搭載します。

通常のエディタとしての機能のほかに、以下のような機能を搭載しています。

- ・ 漢文エディタ機能(左右の振り仮名、送り仮名、返り点、句読点、上下の括弧の操作)
- ・ 問題用の傍線設定と自動連番機能。
- ・ 解答欄作成。

『指導資料PDFファイル版』(別売)

分冊の指導資料の内容をPDFデータで収録します。

生徒用教材のご案内

『学習課題ノート』

B5判 別冊解答・解説付き

教科書準拠のワークブックです。別冊解答には、自習にも使える詳しい解説が付きます。「高等学校」「精選」「明解」それぞれの教科書の特徴に対応した構成になっています。

現代文編 二 小説(二) 青が消える

二 小説(二)

青が消える

村上春樹

☆ 教科書 P.35～P.43
検印

漢字・語句を確認しよう

■ 次の——線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 視力が一時的に狂 [] う。
- ② 何度か深呼吸 [] をする。
- ③ 歳月 [] に洗われる。
- ④ 写真が涙山 [] 入っている。
- ⑤ 事態に対処 [] する。
- ⑥ 邪魔 [] して悪いね。
- ⑦ 辛気臭 [] い人生だ。
- ⑧ 目一杯 [] 楽しんでる。
- ⑨ 床 [] に投げつける。
- ⑩ 公衆 [] 電話からかける。
- ⑪ 声は合成 [] である。
- ⑫ 電話に向けて怒鳴 [] る。
- ⑬ 「斉」 [] に振り返る。
- ⑭ 歓声 [] をあげる。

■ 次の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① オークストラの「キシヤ」 []。
- ② エンソウ [] の途中。
- ③ まだ名残オ [] しい。
- ④ ポク [] はすぐに気づいた。
- ⑤ ナグ [] られて記憶を失う。
- ⑥ アワ [] い青、深い青。
- ⑦ シヨサイ [] に行く。
- ⑧ シベリアのヒヨウゲン [] 。
- ⑨ ケントウ [] もつかない。
- ⑩ 青のショウメツ [] について。
- ⑪ パーティーをク [] 広げる。
- ⑫ メイロ [] のような地下鉄。
- ⑬ 冬季「ウボウ」 [] 戦の記録。
- ⑭ 白いボウシ [] を手に取る。
- ⑮ フクオカ [] 限。

■ 次の語句の意味を答えなさい。

- ① 茫漠 []
 - ② 暗嘩腹 []
 - ③ 辛気臭い []
- 次の語句を使って短文を作りなさい。
① とりとめのない

文章の理解を深めよう

■ 次の空欄に本文中の語句を入れ、全体の構成を理解しよう。

青の消滅 (初め 38・1)	僕が「①」のストライプのシャツにアイロンをかけているときに、青が消えた。自分の「②」がどうかしてしまったのだろうと思った。それは1999年の「③」だった。
彼女に電話する (38・2、39・10)	青の消滅について情報を得ようと、別れた「④」に電話をかけるが、あきられて電話を切られた。
青を探す (39・11、41・2)	「⑤」の地下鉄の駅員に聞いてみたが、聞かないでくれと言われる。
二十一世紀の到来 (41・3、終わり)	電話で「⑥」を呼び出すと、合成の声が「どうして青がなくなっているのですか」と僕に言った。みんなが「斉に新しい「⑦」を祝う。僕だけが消えた青のことを気にしている。それは僕の「⑧」だったから。

■ 「青が消えた」という状況について整理しよう。

- 1 「青はだんだんかすんで薄くなっていて、それからすっかり消えてしまった。(35・1)」という青が消えていく様子を、比喩で表した部分を本文中から抜き出し、初めと終わりの五字ずつを記しなさい。
- 2 「青が消えたときに僕はすぐに気づいた。(36・8)」とあるが、このときの「僕」の心情を、本文中から十八字で抜き出しなさい。
- 3 「根柢で隠られて記憶を失ってしまったようなとりとめのない白にとって換わられていた。(36・5)」は、「僕」のどのような心理状態を示していますか。次の文の空欄に当てはまる言葉を、本文中から抜き出しなさい。

- シャツの①であつた部分が②に換わり、大きな衝撃を受けると同時に、最初から③と④のシャツだったので、思い始めて、⑤をたどろうとするが、頭の中がまとまらない状態。
- ① [] ② [] ③ [] ④ [] ⑤ []

★三省堂国語教科書ホームページ

「ことばと学びの宇宙」

<http://tb.sanseido.co.jp/kokugo/kokugo/index.html>

「教科書編集の趣旨」「評価資料」「年間シラバス案」は、こちらからダウンロードできます。

国語総合指導資料・教材一覧

指導書 (内容は変更になる場合があります)



= 冊子とデータでのご提供です。



= 冊子でのご提供です。



= データまたは音声でのご提供です。

		高等学校国語総合		精選国語総合	明解国語総合
		現代文編	古典編		
セットで同梱	指導資料				
	評価問題				
	実力問題				—
	補充教材				
	基本テスト				
	発問例集				
	ワークシート (構成・内容理解、語句・漢字学習、古文品詞分解、漢文書き下し文、古典口語訳)				—
	ワークシート (学びの道しるべ、語句・漢字、本文語句、本文漢字、構成・内容理解、古文品詞分解、表現活動)	—	—	—	
	教科書原文				
	学習課題ノート				
	朗読CD				
	テスト問題エディタ				
教師用教科書					
本体価格		¥15,000	¥11,000	¥25,000	¥24,000

※『高等学校国語総合』は「現代文編」「古典編」で別売になります。

※「発問例集」の内容は「指導資料」にも含まれています。

指導書別売品

教師用教科書				
本体価格	¥3,000	¥3,000	¥5,000	¥5,000

※指導書セットの「教師用教科書」と内容は同じです。

指導資料PDF版			
本体価格	¥5,000	¥5,000	¥5,000

※指導書セットの「指導資料」の紙面をPDFファイルにしたものです。

※『高等学校国語総合』は「現代文編」「古典編」が一つになっています。

生徒用教材 (採用品)

学習課題ノート				
本体価格	¥500	¥500	¥600	¥600